

指導の形態	自立活動「最後まで勉強しよう」 ～注意の持続の工夫～	障がい種	注意欠陥多動性障がい (ADHD)
-------	-------------------------------	------	----------------------

授業の概要やよさ

- ・情緒が不安定で、授業中でも話したり動き続けたりする児童に、最後まで課題に取り組む指導を行う。
- ・障がい特性に配慮し、本人の得意な面を生かす工夫を指導に取り入れる。

児童生徒の様子

- 小学校3年生A
 - ・自閉症スペクトラム
 - ・常に追い立てられるようにずっと話したり、動いたりしている。
 - ・元気よく活動していたかと思うと些細なことで泣きじゃくるなど、情緒が安定しにくい。

目標

- 自立活動
 - ・席について最後まで課題に取り組むことができる。



支援のポイント

○1単位時間の活動の仕組みの工夫

授業に見通しを持って意欲的に取り組めるように!

- 活動の仕組みを固定化する。
予めA児に必要な課題をいくつか用意しておき、その中からA児が選択することで1時間の授業プランを立てる。
- 気持ちの切り替え
好きな課題の時、次の課題に取りかかることが難しい。そのため、タイマーをセットしておきブザーがなったら次の活動を行うようにする。

○働きかけ方の工夫

- 常にゆっくりしたペースで関わったり、A児が答えやすい質問をしたりして、活動のペースが落ちるよう配慮する。
- 書くことが苦手だが、聞いたり、話したりすることは得意なので、視覚情報とともに必ず聴覚からの情報も入れる。

常に話したり、動いたりするA児なので

A児の得意なところを生かして

魚の漢字を覚える場面で…

①  さかなかな

文字・絵カードを見せ、読み方を知らせる。

②

魚
ク 田 …

 魚は、頭と体とひれ四つ

「魚」をいくつかのパーツに分け、視覚と聴覚から情報を入れる。

③

ク
田 …

部位を分けた漢字を正しく組み立てる。